

# 口腔生化学入門（半田慶介）

Introduction to Division of Oral Biochemistry (Keisuke Handa)

## キーワード

- ① 口腔科学
- ② 口腔分子細胞制御学
- ③ 慢性歯周炎
- ④ 全身疾患
- ⑤ 歯周組織再生療法

## 授業概要

歯周炎は動脈硬化症や骨粗鬆症など寝たきりや痴呆の原因となる疾患と同様、Quality of Lifeを著しく低下させる生活習慣病として位置づけることができる。また歯周炎の進行に伴って見られる歯槽骨吸収の機序は、関節リウマチの発症機序とも共通性がある。これらの事実から、慢性疾患である歯周炎が全身性疾患と密接な関連を持つことは、もはや疑いがなく歯周炎の発症機序と全身疾患との関連については早急な解明が待ち望まれている。これらの最新の研究成果に焦点をあてて講義をする。

## 授業科目の学修目標

本科目では大学院レベルにおいて必要な知識を修得することを目標とする。

## 授業計画

- ① 分子細胞学の意義と研究の基本と倫理規範
  - ・分子細胞学の研究手技の基本について 6コマ 半田慶介
  - ・倫理規範について 4コマ 半田慶介
- ② 口腔分子細胞学研究論
  - ・慢性歯周炎における免疫反応・分子生物反応について 5コマ 半田慶介
  - ・歯髄炎組織における免疫反応・分子生物反応について 5コマ 半田慶介
  - ・慢性歯周炎における骨免疫・分子生物反応について 5コマ 半田慶介
  - ・慢性歯周炎における全身に及ぼす免疫・分子生物反応について 5コマ 半田慶介

## 教科書および参考書

スタンダード 生化学・口腔生化学

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

口腔分子細胞学研究論では授業項目と関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 口腔分子細胞学の意義を理解し基本を説明でき、口腔分子細胞学の領域における倫理規範を理解し応用することができる。
- ② 口腔分子細胞学研究論を理解し実践することができる。

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

## 評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、口腔分子細胞制御論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

## 理想的な達成レベルの目安

口腔分子細胞制御学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。